



関中央ロータリークラブ

2017-2018 WEEKLY REPORT

例会日 毎週木曜日 18時30分

例会場 関観光ホテル（関市池尻91-2）

事務局 関市西本郷通5-2-53 TEL(0575)24-7332 FAX(0575)23-5278

会長 波多野 好文 **副会長** 佐藤 忍 **幹事** 長谷川 修 **クラブ会報委員長** 大藪 太

2017～2018年度国際ロータリー

イアン H.S. ライズリー会長



2017～2018年度関中央ロータリークラブ会長テーマ

「親睦からのロータリー」

本日のプログラム 第1924回例会 2017年12月21日（木）

「クリスマス・結婚記念例会」 / 担当 親睦活動委員会

前例会の記録

第1923回 2017年12月14日（木）

会員卓話 西田健一会員

テーマ 「高齢者の人口推移」

担当：ロータリー財団委員会

*ロータリーソング「我等の生業」 斉唱

*会長あいさつ 波多野好文会長

皆さん、今年もあと2週間と少しになりました。例年より寒い日が続きますが、風邪などひかれないうよう、今後もロータリー活動にご理解・ご協力をよろしくお祈りします。

さて、今日はペットの話をしたと思います。皆さんは犬とか猫を飼っていらっしゃいますか。うちもこの間16年ちょっと飼っていた柴犬を亡くして、家族全員大変落ち込んでいたのですが、3年程前に亡くなられた、ムツゴロウ（畑正憲）さんの語録によると、ペットが死ぬということは、「本当の意味では、愛するものとの別れは別れではないのです。心の中に大きなプレゼントをもらっていて、思い出として私たちの中に生き続けるのです。決して断絶ではな



いのです。」という言葉に癒されたようです。

犬派・猫派いろいろありますが、飼われているのはどちらが多いのでしょうか、

社団法人日本ペットフード協会の調査によりますと、平成28年には、登録してある犬の数が987万8千頭、猫の数が984万7千頭で拮抗していますが、わずかに3万頭ほど犬が多いようです。しかし猫の頭数が横ばいに対して犬は減少傾向にあり、現在では逆転しているかもしれません。又、猫の数にはいわゆる「野良猫」は含まれていませんので、圧倒的に猫が多い様です。

飼い主の年代別では、50代が犬・猫共もっとも多くて、次に60代となっています。犬全体の平均寿命は14.36歳、猫は15.04歳で猫の方が長生きです。犬は超小型犬・小型犬の寿命が長く、猫は「家の外へ出る」ものが、13.26歳に対して「家の外へ出ない」猫は15.81歳と長寿です。又、ドッグフード・キャットフードの改良により、犬も猫も寿命が延びています。やはり昔の様に残り物の味噌汁かけご飯では、犬や猫も塩分の取りすぎになり、短命になるそうです。

ペットを飼う効用としては、夫婦の場合、夫婦の会話が多くなった、夫婦の関係がなごやかになったとか、夫婦で過ごす時間が多くなったなど、夫婦関係の改善にも効果があるようです。

犬と猫どちらが頭がいいのでしょうか。よくある議論ですが、犬は言葉を覚える、芸をする。猫はゴロゴロしているだけで、呼んでも来ない等のイメージがあり、犬の方が賢く思われがちですが、科学的に言うと、たしかに脳の大きさは犬の方が大きいのですが、脳の質を表す神経細胞は猫が3億個に対して犬は1億6千万個と半分しかありません。圧倒的に猫の方が賢いとなります。しかし、盲導犬とか警察犬があるのに、盲導猫や警察猫は聞いたことが有りません。

結論では、猫はもともと単独生活を好む生き物、つまり自分の意思で行動するのが好きな生き物ですが、対して犬は社会性が高い動物ですから、他者と協調するのが得意でした。だから人を援助する役割を与えられました。犬は人の言う事を聞くように訓練されてきましたが、猫は何も教育されることなく、その自由さが愛されて今のポジションを築いています。結局どちらが頭がいいとは言えないそうです。皆さんはどうお思いでしょうか。西田健一会員の卓話です。西田さんよろしくお願ひします。

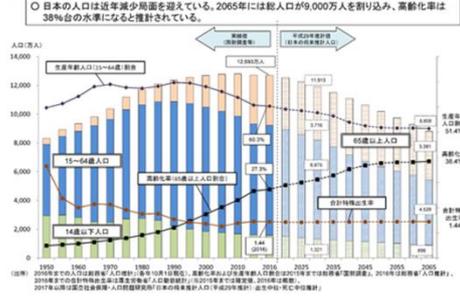
***会員卓話 西田健一会員**

テーマ「高齢者の人口推移」

私は関市中福野で住宅型有料老人ホームを経営していますので、高齢者のことについてお話させていただこうかと考えている途中に「未来の年表」人口減少でこれから起きることという本を読みまして、大変衝撃を受けました。話の終わりにその人口減少カレンダーを紹介して、その責を果たしたいと思ひますが、この本は60万以上売れているベストセラーでありまして既にお読みになつていられる方がおられるかもしれません。資料を作つておきまして、高齢者の人口推移ではなくて日本の人口推移のようなお話になってしまいました。

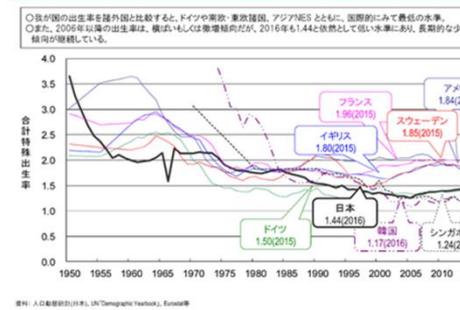


日本の人口の推移



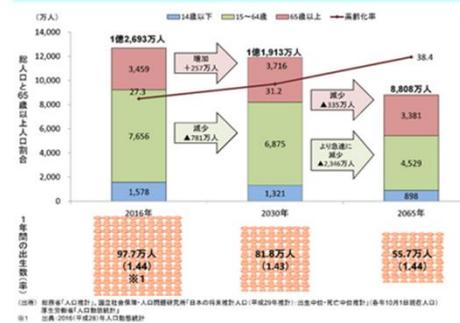
日本の人口推移は皆さんもご存知の通り2010年を境に人口減少が始まっています。2065年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されています。

諸外国の合計特殊出生率の推移



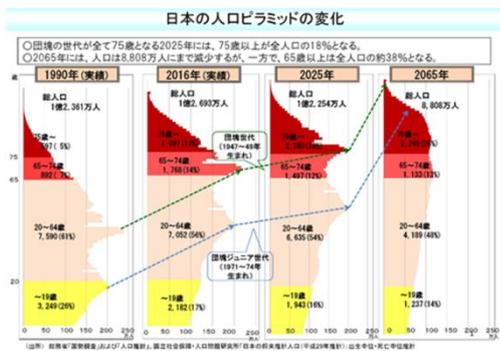
我が国の出生率を諸外国と比較すると、ドイツや南欧・東欧諸国、アジアNIE Sとともに、国際的にみて最低の水準であり、2006年以降の出生率は、横ばいもしくは微増傾向ではありますが、2016年も1.44と依然として低い水準にあり、長期的な少子化の傾向が継続しています。日本のグラフに大きく落ち込んだところがありますがこれは丙午(ひのえうま)の歳であり迷信というかそんなことにとらわれている人が多いことも見えます。

今後の人口構造の急速な変化



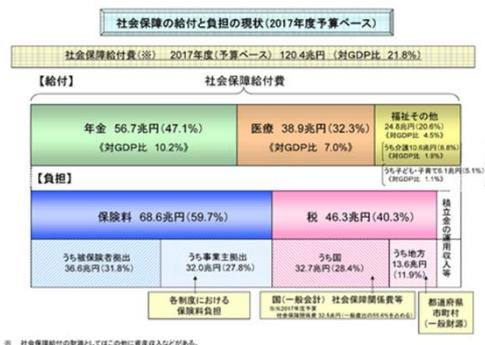
このグラフのように2016年の人口が1億2693万人、2030年の人口が1億1913万人、2065年には8808万人になると予想されています。又出生数は、2016年

は97.7万人、2030年は81.8万人、2065年は55.7万人と推計されています。子育てしやすい環境づくりとして不妊治療への補助、待機児童の保育所問題、教育の無償化への問題など様々な対策を考え進められているのが現状です。出生率としては微増ですが改善されているようです。しかし、若年層の人口減少により、出生数（人口）が増えていくわけではありません。出生率が同じでも若者の人数が少ない分絶対数は少なくなります。現実的に今から13年後の2030年には生産人口と考える15～64歳が減少し、2065年(48年後)には恐ろしい人口構造となります。



団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となります。2065年には、人口は8808万人まで減少する一方で、65歳以上は全人口の38%台となります。

この表は各年代を現したグラフであり団塊の世代、団塊ジュニア世代等人口分布の特徴が読み取れます。



次に、社会保障費の内訳に目を投じますと給付（支払い）の内、年金給付が約半分を占めていて年金56.7兆円（47.1%）医療38.9兆円（32.3%）福祉その他が24.8兆円（20.6%）です。

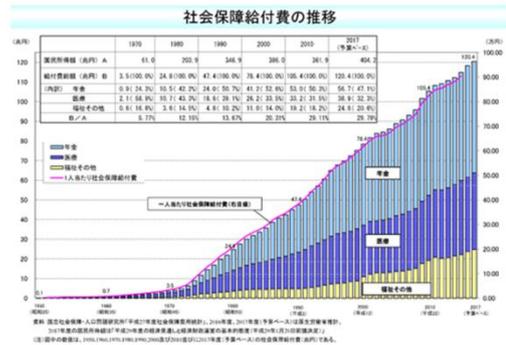
負担については保険料68.6兆円（59.7%）のうち我々が払う被保険者拠出36.6兆円（31.8%）事業主負担32兆円（27.8%）税金46.3兆円（40.3%）うち、

国税32.7兆円（28.4%）地方税13.6兆円（11.9%）残は積立金の運用収入等であります。

政府は企業の「定年延長」に力を入れています。働き手不足の解消と年金受取の先送りをねらっています。また、医療給付と介護給付が41%を占めております。

給付の抑制として報酬の引き下げや制度改革。要支援者への訪問介護、通所介護を国から各自自治体への運営移行を実施しています。

また負担面では利用者負担の増加（1割負担→2割, 3割負担へ）個人や企業が支払う保険料の計算方法を総報酬割へ変更し、収入に見合った保険料への変更など々々に対策を講じていますが、年々増え続ける社会保障給付費に対応していけないのが現状です。



グラフをご覧の通り年金給付については大変な勢いで増加しています。この現状を見て皆さんはどう感じましたか？国の歳出総額の約34%が社会保障費用です。2019年秋の消費税の引き上げだけでは今後、増大する社会保障給付費をまかなっていくことは大変難しく、更なる利用者の負担増や国民への負担が求められるのでは・・・また、国際公約となっている「財政健全化」への対応にも今後注目しなければなりません。

冒頭にも申し上げましたが未来年表人口減少カレンダーについて紹介させていただきます。（抜粋）

2017年「65歳～74歳」の人口が減り始める。2020年女性の過半数が50歳以上となり、出産可能な女性数が大きく減り始める。

2026年高齢者の5人に1人が認知症患者(730万人)となる。

2030年段階世代の高齢化で、東京郊外にもゴーストタウンが広がる。

2040年全国の自治体の半数近くが「消滅」の危機に晒される。

2053年総人口が9924万人となり、一億人を割り込む。

2055年75歳以上人口が2449万人でピークを迎える。

2065年総人口が8,807万7000人で2.5人に1人が高齢者となる。

続いて日本を救う10の処方箋についてお話をいたします。

○戦略的に縮む

1. 「高齢者」を削減→新たな年齢区分で計算する
2. 24時間社会からの脱却
3. 非居住エリアを明確化
4. 都道府県を飛び地合併
5. 国際分業の徹底

○豊かさを維持する

6. 「匠の技」を活用
7. 国費学生制度で人材育成

○脱・東京一極集中

8. 中高年の地方移住推進
9. セカンド市民制度を創設

○少子化対策

10. 第3子以降に1000万円給付

以上申し上げましたが日本の人口減少がほんのすぐそばまでせまっていることを申し上げまして、私の卓話を終わります。ご清聴ありがとうございます。

*10月度IGM報告

レポーター 小澤重忠君

出席者 7名

カウンセラー 波多野篤志君

R情報委員 伊佐地金嗣君

世話係 山田文夫君

出席義務者 神谷秀幸君、大藪太君、古田博文君

IGMも7月に始まり、今回最終回の4回となる。灯火親しむ秋であり、おいしい酒を一杯やりながら、美味な料理を頂きながら、日頃のロータリー活動の在り方、有意義さ、楽しさ等忌憚のない話の中で和気あいあいのIGMとなった。主なテーマとしては、会員増強と継続事業であったが、会員増強で中津川RCが一年度中に15人の新会員増強の実績を上げ、地区として注目されている。



当日の出席者がRCに入会した時の状況や、入会の動機、ロータリーへの思い入れ等話し合い、ロータリーのルールを学び、ロータリアンの奉仕について若い人に引き継いでゆくことが大切である。また親子会員、兄弟会員についても会員増強の方法として進めてゆくことも良いのではないか。RCの継続事業の交換学生で、若い高校生にインターナショナルな体験をしてもらう事業は素晴らしい事業である。関商工高と台湾の高校生の交流事業は継続して行ける工夫をして行こうと活動のあり方について提言があった。

*出席委員会

会員数31名、本日の出席16名です。

*ニコボックス委員会

・会長・副会長・幹事

西田さん、卓話宜しくお願いします。

・小澤重忠君

西田会員の卓話、拝聴楽しみにしております。

16名のご投函ありがとうございました。

*幹事報告

例会終了後、理事・役員会を行います。関係者の方はご出席をお願い致します。

<次例会の案内>

第1925回 2018年1月11日(木)

「新春例会」 場所：味の孫六

担当：会長・幹事・親睦活動委員会